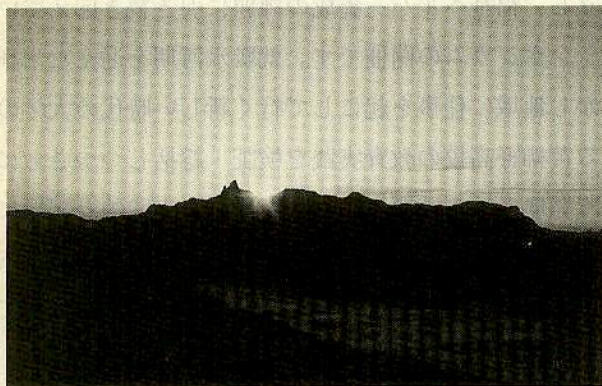


---

## 新しい年を迎えて



杉本 時哉

協同総合研究所理事長

---

会員・友誼組織の皆さん、あけましておめでとうございます。

戦後50年に当たった昨年は、まさに節目の年に相応しく、年初の阪神大地震から始まって、これまでの政治・経済・社会の在り方について根本からの問い直しを迫る衝撃的な事件が相次いだ一年でした。オウムが絡んだ一連の人間喪失の不快な事件、相次ぐ金融破綻とその対策をめぐる不透明なやりとり、深刻化した不況、産業空洞化、リストラ、就職超氷河期と呼ばれた大量失業時代、米軍による少女暴行事件に端を発した沖縄問題、安全保障問題、フランス・中国の核実験、もんじゅの事故、新食糧法の発足、いじめ・自殺が象徴した教育現場の荒廃、ピストル犯罪の激増その他数え上げていくとまだまだ実に多くの転換に当たって再吟味を促す課題が突き付けられてきました。

一方、そうした深刻な問題に直面しながらも、これに対応する人類の知恵と心（ハート）を蘇らせる明るい萌芽も見え始めました。阪神大地震での人々のボランティア活躍は、大きな波紋を描いて人々の心に影響を与え続けています。マンチエスターでは、協同組合原則が新たな改訂をみて、21世紀に向けての非営利・協同の旗印・原則が基礎付けられました。転換を迫られる状況への人々の認識は、まだまだ全体として立ち遅れを否めませんが、労働者協同組合の運動、協同を問う運動は着実に人々を励まし勇気づける役割を果たして来たと言えるでしょう。あらためて会員の皆さんの善意溢れる健闘・活躍に心からの敬意を表し、確信を共有したいと思います。

協同総研としてのこの一年は、やるべき事、やりたい事の大きさに比べて、顧みてなお非力

を思わずにはおれませんが、少なくとも前進し続けて来たことは間違いありません。

新しい年も課題は山積しています。第1に労働者協同組合の法律案要綱・定款案をまとめる課題です。そして皆さんの検討を仰ぎ組織することです。第2に農林漁業等第1次産業を食糧自給や環境保全の課題と絡めてどう発展させ得るかの検討です。第3に介護保険の制度化をにらみながら高齢者協同組合を全国的に設立し、福祉ヘルパー養成の課題に引き続き応えていくことです。第4に大学生協連と協同したシンポジウムの開催です。就職氷河期を迎えた学卒者の働く場をどう創造して行くか、人を生かし地域に仕事を起こして行く新しい時代の大学の在り方についても考えたい。2年目を迎える黄柳野高校の教育実践を検証・総括しつつさらに広げて行く課題、子育て文化協同をいっそう発展させる課題、こうした優れて実践的な課題に引き続き取り組みながら、国際的な連帯や研究の交流を通じて、協同の思想を国際的にも国内でも共有化できるよう、新しいICA原則の普及活動とともに推進して行くことが求められています。

さらに今年は2年に一回開催してきた「いま協同を問う」全国集会の年です。東北の仙台市で11月23～24日、開催の予定です。この集会の意義は、その後の運動の発展を通じて加えられた新たな協同の経験を、広く交流する目的とともに、規制緩和、貿易自由化、効率・価格競争で打ち棄てられていく第1次産業・地場産業の創造的開発の道を協同の知恵と力で切り開こう、地域に密着し生活に密着した協同を地方公共団体にも働きかけて根付かせようという特別なテーマも込められています。規模としても今日の情勢に相応しく、大きな規模で成功させ、21世紀の非営利・協同の展望を確信出来るものになりたいと考えています。

永続可能な社会への転換を目指して、人々の共生、協同をいっそう発展させようではありませんか。そのためにも協同総合研究所自身が研究協同組合として、会員の発意と参加に支えられた、新しい活動スタイルを生み出す必要があります。そのための会員の皆さんからの、より積極的な提言・叱声を期待しています。

事務局一同、そうした思いを込めて、新年を迎えての心からの挨拶とします。